

平成 2 9 年

第 2 回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

平成29年第2回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

初めに、熊による死亡事故についてです。

5月27日、玉川地区叫沢付近でタケノコ採りのため入山していた、仙北市の女性（田沢湖卒田・61歳）がクマに襲われ死亡する事故が発生しました。

事故発生からこれまでの経緯と当面の対策について報告します。

市では、当日13時07分に事故発生の通報を受け、総合防災課の職員2名を現場に向かわせました。併せて同日14時30分、「玉川叫沢付近クマ被害対策室」を立ち上げ、情報収集と今後の対策について、関係機関と対応にあたりました。

現場の職員、警察等から入る事故現場の状況報告から、周辺に複数のクマが広い範囲にいることが確認され、対策室では近隣の玉川温泉へクマ出没のため注意をするよう連絡するとともに、現地では警察のヘリコプターから山中にいるタケノコ採りの人たちに下山を呼びかけました。

同日15時過ぎには、仙北警察署が注意喚起の立て看板と国道から入山を規制するためのロープを設置し、対策室では防災行政無線、安心安全メールなどで入山自粛を呼びかけたほか、注意喚起の看板を設置、また、6月1日発行の広報せんぼくに綴じ込む方法で、死亡事故が発生したことや入山自粛をお願いするチラシを全戸に配布しました。

翌5月28日には、朝4時から国道341号沿いの茶立ての清水駐車場付近で、クマによる死亡事故発生を知らせるチラシを配布し、玉川地区への入山を自粛するよう呼びかけを行ったほか、仙北警察署及び総合防災課職員が、玉川地区内を車で巡回しながら注意喚起を行いました。

同日13時から、秋田県自然保護課の主催で「ツキノワグマ被害緊急対策会議」が田沢湖庁舎で開催され、関係団体の代表21人が出席し、看板設置やチラシ配布、現地巡回などで死亡事故発生を

お知らせしながら、入山を自粛するよう注意喚起を継続することなどを決定しています。

5月29日には、緊急の仙北市普通共用林野運営協議会が開催され、これまで実施してきた黒石林道・小和瀬林道への入山許可証の発行と料金徴収を今シーズンは中止することとし、すでに徴収済みの入山許可証の料金は返却することを決めました。また、料金徴収を行わないことから、市では6月1日から当分の間、普通共用林野運営協議会の協力のもとに、料金所2箇所での入山の自粛を呼びかけ、チラシの配布や周辺のパトロールを行うことにしました。

なお、看板設置等、緊急対策にかかる所要の経費について、予備費で対応することにしました。ご理解をよろしくお願いします。また緊急事案だったとはいえ、チラシ配布の初期段階で、商標登録のある画像を確認せずに無断使用したミスがありました。認識が低かったことを悔やんでいます。また商標権を持つ皆様に心よりお詫びを申し上げます。

今後、本格的にタケノコ採りのシーズンに入りますが、再び痛ましい事故が起こらないよう、入山の自粛やクマ対策等の注意喚起を徹底します。

次に、国の成長戦略についてです。政府は今年の成長戦略素案をまとめ、これを先月30日開催の未来投資会議で示しました。未来投資戦略2017の素案として示された内容は、日本の強みが生きる成長分野に政策資源を集中投下し、健康寿命の延伸や移動革命の実現など5分野を中心に取り組むというものです。主なものは人工知能（AI）や情報技術（IT）、インターネットと全てのモノを結ぶ技術（IoT）の高度活用、ドローンや自動運転の実証と実運用、さらにこれらの動きを法的に支える「規制のサンドボックス制度」（参加者や機関を限定して現行規制を一時凍結する制度）の創設などです。これらは全て、現在仙北市が取り組みを進める地方創生関連事業と同軸上にあります。「規制のサンドボックス制度」は、2月の国家戦略特区諮問会議で、仙北市近未来創造アドバイザーとして出席し

た牧浦土雅（まきうらどが）さんが提唱したものです。この制度は今後の地方創生を加速するエンジンになる制度と期待しています。

また、先月都内で開催された世界経済フォーラムで、自動走行に関するワークショップで仙北市の取り組みを発表しましたが、自動走行は都市部での活用はもちろん、人口減少や高齢社会が進展する過疎地でこそ、積極的に導入すべき技術だと確信できました。今後も国の動きを注視しながら、仙北市民の生活課題の解決に向け、地方創生を加速できればと思います。

次に、一般会計補正予算（第1号）についてです。

補正額は1億6,069万4千円で、補正後の額は190億1,539万4千円となります。

主な追加事業は、庁舎整備事業費、人と事業が集まり育つ未来創生事業費（地方創生推進交付金）、温泉と健康によるヘルスケア推進事業費（地方創生推進交付金）、次世代定住支援事業費補助金、温泉休養施設管理運営費、地域密着型サービス施設等整備事業費補助金、介護施設開設準備経費等支援事業費補助金、インバウンド横軸連携受入整備事業費（観光復興交付金）、総合給食センター建設事業費などです。

なお、平成28年度一般会計決算見込みと市税関係については、5月31日の出納閉鎖後の最終確認が必要なことから、現在精査中です。本定例会の常任委員会にて報告すべく作業を続けています。ご理解をお願いします。

それでは、各部局等の主要事項並びに諸般の状況について報告します。

## 【総務部】

### ◇平成29年春の叙勲受章者について

元角館中学校校長の西宮陽助（にしのみやようすけ）さんが教育功勞で瑞宝双光章を受章されました。また、元田沢湖町消防団副分

団長の大山隆男（おおやまたかお）さん、元西木村消防団分団長の小林伍市郎（こばやしごいちろう）さんが、消防功労により瑞宝単光章を受章されました。

この度の受章は、永年にわたる職務の精励や功績、功労が認められたものです。市民の皆様と共にご労苦に感謝し、心からお祝いを申し上げます。

#### ◇カラ吹き源泉事故殉職者慰霊碑の建立について

カラ吹き源泉事故で殉職された方々の鎮魂と、二度とこのような事故を起こさないことを誓うため、源泉の分湯槽があるアルパこまくさ周辺に慰霊碑の建立を進めています。

7月13日にはご遺族をはじめ、議員の皆様にもご参列をいただき、市の主催による慰霊碑の除幕式を挙げる予定です。

改めて、お亡くなりになった3人の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

#### ◇後期高齢者医療保険料及び国民健康保険税の算定誤りについて

全国の後期高齢者医療広域連合で使用しているシステムで、保険料の軽減判定部分に誤りがあり、保険料が誤賦課されるケースがあることが判明しました（平成28年12月27日に厚生労働省が公表）。

このため、本市の被保険者について平成20年度分から平成28年度分を確認したところ、誤賦課となっていた方が8人おられたため、お詫びした上で訂正をしました。

また、後期高齢者医療保険料と似た仕組みで、税の軽減判定を行っている国民健康保険税のシステムについても同様の誤りがあることが判明したため、本市の被保険者について確認し、誤賦課となっていた28人の方々にお詫びした上で訂正しました。

これらの事案発生により、被保険者の皆様にはたいへんなご迷惑とご心配をおかけしました。改めてお詫びを申し上げます。今後とも再発を防止するため、システムが処理した結果の確認には十分留

意して事務を進めます。

#### ◇コンビニ等収納サービスの導入について

少子高齢化や生活サイクルの多様化等に伴い、市役所・金融機関の開庁・営業時間外に、様々な市の徴収金を納付したいとのニーズが高まっています。また、自ら移動する手段を持たない方々（交通弱者等）が増えていて、納付できる場所の充実も市として対応すべき課題と考え、これまで検討してきました。

このたび、市の徴収金を納付できる場所や時間を拡大できる手法として、皆様からご要望が多かったコンビニエンスストア、また、ゆうちょ銀行（郵便局）で納付できる「コンビニ等収納サービス」の導入を判断しました。平成30年度からの運用を目指し、具体の準備作業に着手しています。

#### ◇濱田謹吾銅像建立30周年記念式典について

4月21日、戊辰戦争で犠牲となった濱田謹吾銅像建立30周年記念事業が行われ、園田裕史（そのだひろし）大村市長、村上秀明（むらかみひであき）大村市議会議長（※来市時）ほか、大村市から90人を超えるお客様をお迎えしました。角館町岩瀬天神山広場で実施された記念式典、また会場を移しての祝賀会で、濱田少年をご縁に両市のさらなる連携と友好発展を確認することができました。主催した角館戊辰会の皆様には、大変ご難儀をおかけしました。また、市議会の皆様にも多数のご出席をいただきました。ありがとうございました。

また、来年は戊辰戦争後150年となります。大村市と共同した記念事業の実施を検討します。

#### ◇田沢湖クニマス未来館の進捗状況について

クニマス未来館の建設工事は終了し、現在は展示工事と外構工事を実施中で、いずれも完成予定は6月15日となっています。

4月17日にクニマスの飼育員を2人採用し、その後に秋田県内

水面試験池での研修、5月15日から19日には山梨県西湖の展示館で実際にクニマスの飼育研修を行いました。また、5月29日には事務を担当する臨時職員の面接試験を行い、6月1日から勤務しています。

クニマスは5月10日、県内水面試験池に10尾が無事に到着し元気に過ごしています。未来館にはリスク分散の観点から、ひとまず5尾を6月14日を目処に移動する予定です。

内覧会は、招待者及び市民を対象に6月24日（土）から26日（月）で開催予定です。

そのほか、5月17日には館内売店の入札が2社の参加で行われ、株式会社アロマ田沢湖が事業者に決定しています。案内看板の工事についても発注が終了し6月23日に完成の予定です。なお、6月1日付で、クニマス未来館館長に大竹敦（おおたけあつし）田沢湖再生専門官を発令しています。

7月1日のオープンに向け、今後もしっかりと準備を進めます。

#### ◇玉川ダム湖総合開発株式会社の解散手続きの進捗について

昨年度から進めてきた、玉川ダム湖総合開発株式会社解散の進捗状況について報告します。

出資額の返還も昨年度で終了し、今後は解散のための総会を6月8日に開催する運びとなりました。

市の返還額については、会社整理に必要な額を差し引いた見込額として1,540万円を予算に計上していますが、現在のところ予定した額を少し上回る見込みです。

なお、これまで玉川ダム湖総合開発株式会社が受注していた玉川ダム周辺施設の維持管理については、先日入札が行われ地元建設業者が事業者に決定しています。今後も利用される方の利便性を損なうことがないよう対応します。

#### ◇台湾アジア太平洋国際温泉観光協会日本大会について

6月18日から玉川温泉、田沢湖高原温泉郷にて「2017台湾

アジア太平洋国際温泉観光協会・日本秋田県仙北市玉川温泉大会」が開催されます。

台北駐日経済文化代表処の謝長延(しゃちょうえん)代表をはじめとする来賓を迎えて会議を開催するほか、仙北市の資源である玉川温泉などの温泉や食、観光資源を満喫いただければと思います。

また、地方創生関連のヘルスケアツーリズム事業として、台湾大学医院から趙家徳(ちょうかどく)医師をお迎えし、西明寺診療所の市川晋一(いちかわしんいち)医師のもと、湯治文化の学習や入浴の仕方、健康相談会などを行う予定です。健康と温泉の関係を学術的に探め、仙北市が進めるヘルスケア事業のメリットや課題の洗い出し、国際交流の展開手法などについて検証できる絶好の場面と捉えています。

なお、仙北市議会のおもてなし事業として、期間中に餅つきや蕎麦打ちなど、趣向を凝らした歓迎催事を実施予定とお聞きしています。市議会の皆様には心よりの感謝を申し上げます。

#### ◇「TAZAWAKOベース」について

4月14日、田沢湖駅前に「Local business base camp TAZAWAKO(TAZAWAKOベース)」がオープンしました。この施設は、昨年仙北市が設立した「近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」で策定された事業計画「SEMBOKU FLIGHT PLAN」(通称SFP)の各事業の推進を目的に、合同会社ツクル・有限会社コンテンツ計画・創生する未来の民間団体が「SFPパートナーズ」を結成し、事業推進をするために開設されたものです。

さらに、先月29日、事業の着実な推進を目的に、仙北市とSFPパートナーズの間で連携協定を締結しました。今後は、TAZAWAKOベースをIoTなどの近未来技術を活用した仙北市の新産業創出支援、また、事業参入を目指す企業同士の交流や研修の場として、協同事務所(シェアオフィス)としての貸出しや移住、起業を考えている人たちの活動支援を連携して行っていきます。



#### ◇「ドローンによる体験事業～角館空中さんぽ～」について

5月1日、角館桜まつり期間中の桜木内川河川敷でドローン映像配信の実証実験を行いました。仙北市と連携協定を結ぶ秋田ドローンコミュニティ（会員約200人）で、中心的役割を担っている株式会社くまがい印刷の協力を得て実現しました。映像は桜木内川上空を飛行するドローンのカメラからゴーグル形状のディスプレイに配信されるシステムで、参加した約150人はあたかも桜を上空から眺めているような疑似体験を楽しむことができました。

#### ◇移住・定住対策について

5月14日、数年前に移住されたA&K工房代表の土屋和久（つちやかずひさ）さんの主催で、仙北市に移住された方々とサポーター合せて17人が出席し、2回目の「移住者交流会」が開催されました。新緑の魅力が移住を決めるきっかけになったという方のお話や、除雪や冬期の乗り越え方など、それぞれが工夫して生活されている様子をお聞きしました。今後は、季節に応じた体験イベントなどを開催し、県内の広域ネットワークを構築したいと思います。

#### ◇国家戦略特別区域会議での新提案と現状の事業評価について

5月16日、第5回仙北市国家戦略特別区域会議が開催され、仙北市が提案した「国家戦略特別区域旅行業務取扱管理者確保事業」が承認されました。また、5月22日には内閣総理大臣主宰による諮問会議で同事業が認定されました。

この特例は、農家民宿など受入れ側で意欲ある宿泊事業者等が、地域の固有資源を活かし企画・提供する「着地型旅行商品」の取扱いを広げるため、特区内の営業所で旅行業務取扱管理者として選任される予定者が、観光庁が実施する研修を受けることで、国内旅行業務取扱管理者試験の試験科目が一部免除される内容です。

今後は、仙北市農山村体験推進協議会を中心に制度活用を運用し、仙北市の地域資源を活用した観光事業・教育旅行・体験学習・国際交流などで着地型旅行商品づくりを進めます。経済波及効果や市民

の活力と元気づくりに資することを期待しています。

なお、旅行業登録に必要な開設費用等について補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしく申し上げます。

また区域会議では、山本幸三（やまもとこうぞう）内閣府特命担当大臣から、全特区の取り組み評価が公表されました。仙北市の評価は、未だ着手できていない認定事業はあるものの、特定実験試験局制度の特例を初めて活用した国際ドローン競技会、国有林野の貸付け面積の拡大で全国初の活用、農家民宿等による地域限定旅行の企画・提供の解禁、我が国初めての公道無人運転バスの走行実験、さらには、全国展開の議論につながる複数の改革提案を積極的に行ったなどの内容で評価いただきました。

#### ◇地方創生推進交付金事業について

4月28日、地方創生推進交付金事業として2つの事業採択を受けました。

1つ目は、近未来技術実証特区事業創造計画に基づき、近未来技術を積極的に活用した事業の確立を目指すもので、ドローン空撮コンテスト等で近未来技術活用人材の増加を目指すとともに、地元企業とのマッチング等による起業・事業化に向けた個別相談会などに取り組む内容になっています。2つ目は、ヘルスケアツーリズム推進に係る基本方針に基づき、地域資源の温泉・文化・自然と健康を組み合わせた事業で、温泉入浴が健康に与える効果を蓄積、分析し、市民にこれを還元して健康寿命の延伸や持続可能なまちづくりを目指す内容です。

いずれも事業費の2分の1を国の交付金とし、補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしく申し上げます。

#### ◇地域おこし協力隊について

現在、仙北市で活動されている3人の地域おこし協力隊の現状、今後の計画についてご報告します。

グリーンツーリズムやインバウンド対応で活動している袴田誠

(はかまたまこと)さんと、ユニバーサルツーリズムに取り組んでいる小林裕高(こばやしゆたか)さんは、4月から国際交流推進室を拠点に、国際交流をさらに推進することも視野に入れ、連携をとりながら情報共有と情報発信、各企画と実践に活躍をいただいています。

田沢出張所を拠点として活動している尾崎美由紀(おざきみゆき)さんは、地域おこし活動と並行して今年9月を目途に新たにNPO法人を立ち上げるため、起業に向けた準備をしています。

また、秋田内陸縦貫鉄道活性化に係る地域おこし協力隊が、7月1日付で着任することが決まりました。

新規募集では、近未来技術を活用した夢のあるまちづくりをするために、新たに地域おこし協力隊員を募集したいと考えています。隊員の活動内容は、近未来技術を活用した仙北市のPRや、企業誘致、起業家の育成、移住を促進するプログラムの考案等を想定しています。

任用形態の変更や、募集及び採用に係る所要額を補正予算に計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

#### ◇次世代定住支援事業費補助金について

移住定住を促進するため、住宅の新築や建売住宅を購入する若い世代の夫婦を対象に、子育て支援事業を昨年度から実施していますが、市民の認知度が高まり、また、建築事業者等関係団体のご助力もあって、需要が伸びています。現在の申請数と今後の見込みは、市外からの移住を目的とした申請もあり、昨年実績の16件を上回ることが予想されます。これらに対応するため補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

#### ◇定住対策新婚世帯家賃助成事業費補助金について

仙北市内のアパートに住む新婚世帯を対象に家賃の助成を行い、定住や仙北市への流入を図ることを目的とした本補助金は、年々申請件数が増加しています。平成27年度と平成28年度からの継続

件数 27 件の他、新年度に入り 5 月末現在で 8 件の申請があります。今後も増加する利用者に途切れないサポートを行いたいと考え、補正予算に所要経費を計上しています。ご審議をよろしく願います。

#### ◇落雷による火災の発生について

4 月 26 日、西木町桧木内字大台野 96 番地 2 畠山喜久雄（はたけやまきくお）さん宅で午前 0 時 45 分頃火災が発生し、木造一部 2 階建て住宅 1 棟が全焼しています。火元の住人 2 人は落雷後直ちに避難して無事でした。出火の原因は落雷によるものと推定されています。

また、同夜は市内各地で雷が発生し、落雷により白岩小学校では火災報知設備受信器 1 基、加圧給水ポンプユニット 1 基が破損しています。被害額は 207 万 2 千円でした。

そのほか、市内に設置してある街灯施設にも被害があり、白岩地区では花園大橋街灯の引込設備等が損傷、田沢湖地区では田沢湖跨線橋街路灯の安定器が損傷、角館地区では菅沢踏切前の街灯がショート、また、桧木内字大台野の火災のあった現場付近では火災の延焼により、LED 防犯灯 2 基が損傷しました。街灯施設の被害額は、280 万 3 千円でした。修繕費用について補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしく願います。

#### ◇火災の発生について

5 月 30 日、午後 9 時 30 分、田沢湖卒田字柴倉 130 番地 1、株式会社門脇木材の第 2 工場から出火し、鉄骨造一部木造 2 階建ての工場 1, 342.8 m<sup>2</sup>が全焼しました。隣接する門脇政孝（かどわきせいこう）さんの居宅、木造平屋建 162.73 m<sup>2</sup>にも燃え移り、約 82 m<sup>2</sup>が類焼しました。出火原因については現在調査中です。この火災による死傷者はありません。

#### ◇山岳遭難について

5月9日、西木町小山田字八津の男性(78歳)が、「シドケを採りに行く」と告げ、ひとりで軽トラックで出掛け、夜になっても帰宅しないと午後7時頃、家族から仙北警察署へ通報がありました。

地元関係者が捜索したものの車輛の発見に至らず、入山地点を特定できないことから翌日朝7時20分から警察・消防・消防団・市役所・地元関係者による捜索隊を編成し、車輛の捜索をしたところ、桧木内字大台野開地内の菅谷林道終点で本人の物と思われる車輛を発見し、さらに周辺を捜索したところ、車輛から200mほど離れた沢沿いで男性を発見、保護しました。男性は衰弱していたものの命に別条はなく大仙市内の病院に搬送されました。

また、平成26年8月に登山で朝日岳で遭難し、捜索により発見できなかった千葉県の男性の物と思われるリュック等が、今年の5月になって発見されたことから、5月18日に再捜索を行いました。本人の物と思われる遺留品を多数発見したものの、本人発見には至らず、同日捜索を終了しています。

#### ◇仙北市公共施設等総合管理計画「第1期個別施設計画」の策定について

昨年度3月に策定した仙北市公共施設等総合管理計画は、計画期間30年で、施設等の延べ床面積を35%程度縮減するという目標値を定め、10年ごとに財政状況、社会情勢の変化等に対応して見直しを図ることにしています。

当計画に基づき、今年度、「第1期個別施設計画」を策定します。計画期間を平成37年度までとし、総合管理計画の最初の10年間、また、第二次仙北市総合計画の期間に合わせたものです。

計画は、個別の公共施設について第1期個別施設計画期間におけるあり方、具体的には、存続・廃止等を施設所管部署、部長等会議などで検討、協議及び調整を経て決定する予定です。

なお、廃止等の方針とする施設については、特に利用者など関係者と十分な協議を行いながら慎重に対応します。

計画は、平成30年度予算編成前までに策定し、関連予算を平成

30年度当初予算に計上できるようにします。

## 【市民福祉部】

### ◇仙北市消費生活センターについて

これまで、商品やサービスなど消費生活全般の苦情・問い合わせの受け付けは、市民生活課内に「消費生活相談窓口」を設置し対応してきました。公平対処や消費者への問題解決の支援、啓発活動、情報提供を随時行っていますが、一向に減らない特殊詐欺などの悪質商法や問題解決の複雑化などから、消費者安全法に基づいて仙北市消費生活センターを設置し、市民の消費生活における安心・安全な暮らしを守るなど、消費者行政機能の強化・確立を図りたいと思います。

仙北市消費生活センター条例制定について、本定例会に提案しています。ご審議をよろしく申し上げます。

### ◇温泉休養施設クリオンの温泉プールについて

4月1日から、市民の心身の保養及び健康増進を目的に温泉休養施設クリオンの温泉プールがリニューアルオープンしました。

プールを活用した健康増進の新しい取り組みとして、働き盛りの年代を対象とした「メタボ予防教室」と「リフレッシュ教室」を開催しています。第1クールの参加者数は、メタボ予防教室に11人、リフレッシュ教室に16人という状況です。ゲームを取り入れた水中運動とあって参加者から好評を得ています。

また、高齢者の心身の健康増進及び介護予防を目的に、「浮き浮き教室」、「わくわく教室」を開催し、43人の参加を得ています。

今後も周知活動に取り組み、市民の健康増進に繋げて行きたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、4月のプール利用実績は516人です。今後とも仙北市民の健康増進を推進します。

#### ◇がん患者補正具購入費助成交付金について

この交付金は、がん患者の経済的負担軽減と社会復帰を促進し、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目的に制定された助成制度で、現在のところ頭髮補正具2件の申請がありました。

今後、県でもこの事業が行われる予定で、6月県議会終了後に実施市町村との間で具体的な打合せをすることになっています。

#### ◇ねんりんピック秋田2017「ウォークラリー交流大会」について

4月28日、仙北市実行委員会総会並びに運営委員会を開催しました。9月10日のウォークラリー交流大会開催に向け、関係機関と連携を強化し大会の成功を全力で目指します。

### 【観光商工部】

#### ◇仙北市企業立地促進条例における奨励事業者の指定について

このたび、田沢湖生保内字下高野の「株式会社 東北芝浦電子 代表取締役社長 能味正志（のうみまさし）」及び角館町川原羽黒堂の「株式会社 角館芝浦電子 代表取締役社長 越水和人（こしみずかずと）」から、工場増設に伴う企業立地促進条例に定める奨励事業者の指定申請書の提出があり、5月12日、諮問機関である産業振興推進委員会で、指定のご承認をいただき奨励事業者として指定しました。

東北芝浦電子は昭和44年、角館芝浦電子は平成6年に共に温度センサーを主力製品とし、秋田県の誘致企業として進出創業している企業です。

両企業とも事業計画では今月工事に着手し、完成が11月30日で、12月1日から仮操業、平成30年1月1日から本操業の予定となっています。今回の工場増設に伴い、労務計画による3年後の正規雇用者は、東北芝浦電子では12人増の57人、角館芝浦電子では11人増の60人の計画です。

仙北市の産業振興や雇用拡大、地域の活性化に寄与するものと期待しています。

#### ◇西木工業団地の土地利用について

西木工業団地は、平成12年度に整備し総面積は21,141㎡です。平成24年度からは、その一角3,533㎡で株式会社ストロベリーファームが夏イチゴの栽培に取り組んでいます。

ストロベリーファームの用地と市道を挟んで、残地が17,608㎡ありますが、ストロベリーファームでは、当該地への施設拡張は今のところ予定がないと伺っています。

このため、これからの土地の利活用を検討していましたが、市教育委員会で団地南側の4,000㎡を総合給食センターの建設用地として計画し、本定例会に用地測量及び基本設計に係る補正予算を計上しています。

また、社会福祉法人「秋田ふくしハートネット」からは、障害者(児)を対象とする「生活介護等複合型施設」の建設用地として、団地北側の用地(4,000㎡～5,000㎡)の利用について要望が出されています。

今後、取り付け道路や排水計画等を精査するとともに、残地の利用計画についても検討を進め、工業団地の位置づけを解除し、予定されている事業の推進に努めたいと考えています。

#### ◇角館の桜まつり・刺巻水ばしょう祭り・かたくり群生の郷行事の人出状況について

角館の桜まつりは、4月20日から5月5日までの16日間開催され、今年は気温が比較的低めに推移したこともあり、まつり終盤まで桜の花を楽しむことができました。

人出は、昨年と比較すると7千人増の128万7千人となっています。ただし、昨年は開花が早かったことから4日間前倒しでの開催でした。今年と昨年同期の比較では約5万人増です。

刺巻水ばしょう祭りは、4月8日から5月5日までの28日間の



開催でした。今年は天候にも恵まれたこと、またイベント期間中は J R 東日本による企画列車の運行や地元による郷土芸能発表が好評で多くの方々にお出でいただき、昨年と比較すると 4 万 1 千人増の 1 3 万 8 千人の人出となりました。

八津・鎌足のカタクリは、平年よりカタクリの開花が遅れ、4 月 2 0 日から 5 月 3 日までの 1 4 日間の開催となりました。終盤までカタクリの花が見られ、昨年と比較すると 3 千人増の 1 万 2 千人の人出となりました。

今年も仙北市の花紀行へ多くの方々にお出でいただくことができました。増加要因としては、J R 東日本の重点販売促進地域指定や、期間中に大仙市で開催された国際花火シンポジウム、秋田県が行っている大型クルーズ船誘致事業効果によるものと推測しています。

また、桜まつり期間中の経済波及効果調査を秋田経済研究所に依頼したところ、観光客の消費支出額は 7 3 億円、産業別による経済波及効果は 1 1 8 億円との報告を受けています。

#### ◇クルーズ船寄港について

今年度秋田県への大型クルーズ船寄港が、過去最多の 2 6 回に上る予定です。

官民が連携し、一体となって秋田県に寄港するクルーズ船の誘客や地域振興や経済の活性化のため、県は知事を会長とした「あきたクルーズ振興協議会」を設立し、仙北市も幹事会の一員として活動しています。

4 月 2 5 日秋田に初寄港のダイヤモンド・プリンセス号からは、大型バス 1 8 台で約 7 0 0 人の外国人観光客が仙北市へお越しくいただきました。また、5 月 1 1 日に寄港したコスタ・ビクトリア号は、乗船人員 1, 9 2 8 人のうち 1, 0 6 8 人が仙北市行きのオプションツアーに参加し、バス 2 8 台でお越しくいただきました。この際、訪問時間の幅があって、樺細工伝承館をはじめ、民間の商業施設の方々も営業時間を延長して対応をいただきました。お客様や運行旅行会社から感謝の声が届いています。市民の皆様にはホスピタリテ

ィ溢れる対応をいただき御礼を申し上げます。

クルーズ船のお客様は旅慣れた方が多いと感じています。特にオプションツアーの誘致は、お客様目線で様々な提案をし、地元の消費喚起と経済波及効果を楽しむ仕掛けが必要です。今後も「あきたクルーズ振興協議会」での活動はもちろん、仙北市がこれまで蓄積した各国民間企業、また新たな掘り起こしなど独自の誘客対応を継続し、オプションツアーの獲得に結びつけたいと思っています。

#### ◇ユネスコ無形文化遺産登録による魅力発信について

5月26日から28日の3日間、秋田市広小路を会場に「これが秋田だ！食と芸能大祭典2017」が開催されました。仙北市からは、昨年ユネスコ無形文化遺産登録となった「角館祭りのやま行事」の魅力発信のため、町内の曳山2台に参加をいただきました。

曳山は2日間行い、手踊り・観光用山ぶっつけも披露し、大きな反響を得ています。

また、仙北市を訪れた方々への観光PRとして、ユネスコ登録となった「角館祭りのやま行事」また、「ミシュラン・グリーンガイド」へ掲載となった地域等の紹介を行う立て看板を、田沢湖駅及び角館駅周辺と各地域に、また、ユネスコ登録となった翌年ということもあり、外町交流広場へ曳山展示を行う所要額などを補正予算に計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

#### ◇秋田駒ヶ岳山開きについて

昨日、秋田駒ヶ岳の山開き行事が開催されました。登山者の安全等を祈願するもので、仙北市と雫石町が合同で毎年開催しています。当日は記念登山を行い山頂で両市のピッケル交換を行う予定でしたが、前日から天候が急転し、両市町の主催者判断で昨年に引き続き記念登山を中止しました。

秋田駒ヶ岳には毎年多くの登山客が訪れています。一方で登山者による事故等も多いことから、安全に登山できるよう滑落事故防止等の危険箇所の案内表示や登山道、雪渓等への道標の設置を行いま

した。

今年度、県は駒ヶ岳登山道改修の設計に着手すると伺っています。これと併せ、秋田駒ヶ岳の火山活動に留意しながら安全対策を進めます。

#### ◇国際交流推進室について

「小さな国際文化都市」実現に向け、これまでの取り組みを集約し機動力を高めたいこと、また、「角館祭りのやま行事」のユネスコ無形文化遺産登録、ミシュラン・グリーンガイド掲載で、外国人観光客の増加が見込まれることなどから、今年4月から国内外の皆様の交流・推進のさらなる進展と、観光事業を中核とした地元経済活動の活性化を狙い、国際交流推進室が始動しています。

宿泊旅行統計調査による平成28年1月から12月までの外国人宿泊者数（観光庁発表）では、残念ながら秋田県は約6万人で全国45位、東北でも最下位です。仙北市は韓国人旅行の大幅な減少に対し、これまで誘客施策を展開してきた台湾人旅行者は、実績が着実に伸びてはいるものの、20,975人と前年比94%で微減です。国内では東京都・大阪府・北海道・京都府・沖縄県が上位を占める現状ですが、日本を複数回訪れる外国人は王道の観光地以外に、地方へ足を運ぶ皆様が増加するトレンドです。秋田県は、秋田の魅力を秋田犬で象徴し、そのポスターが話題となっています。今年2月の宿泊人員は12,000人と前年同月比約168%増で、伸び率は全国1位となり施策の成果が出始めています。仙北市は秋田県全体の外国人旅行者誘客の中心的な役割を果たすことから、県内はもちろんのこと、3D事業など広域連携で「点から面」へ、「陸海空路を活用した立体的観光」での誘客対策を、国際交流推進室が中心になって進めます。また観光振興計画の策定にも着手していて、来年2月を目途に完成の予定です。

#### ◇インバウンド誘客促進事業について

国が掲げた、2020年訪日外国人客4,000万人に向けた取

り組みが加速しています。先に述べたとおり、仙北市は訪日外国人客の誘客に全力であたっています。

この一環で実施した「田沢湖・角館周遊パス」（東北復興交付金事業）を、3月に引き続き4月15日から5月15日まで31日間運行しました。2次アクセスの確保は秋田県としても共通課題です。そこで、秋田市・大仙市・男鹿市・仙北市の4市連携で、2次アクセス改善に向けた取り組みを行うため、補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

外国人観光客の旅行形態は様変わりし、少人数での旅行者が年々増加しています。これは国内旅行者も同様です。今回の運行で課題の精査を行います。

#### ◇昔ばなし大学創立25周年記念秋田大会について

5月27日と28日、昔ばなし大学創立25周年記念秋田大会が仙北市田沢湖地区で開催されました。田沢湖地区での開催は、先の20周年記念大会に続き2回目の開催で、この際のおもてなしに、主催者の小澤俊夫（おざわとしお）先生はじめ参加者の皆様が大きな感銘を受け、今回の開催になったとお聞きしています。

27日には、500人余りの方々が、仙北市民会館で行われた小澤先生の基調講演や、思い出の潟分校で行われた交流夕食会を楽しみました。地元の方々や多くのボランティアの皆様にご協力をいただき大成功でした。心より感謝を申し上げます。

なお、地元言葉を大切にする運動に、私も深く共感を覚えています。何らかの形で、仙北地方の言葉を大切にする、子ども達に受け継ぐ仕掛けが必要だと考えています。議会の皆様からのご議論をいただければと思います。

#### ◇市内3観光協会の統合について

先月19日から30日にかけて、市内3観光協会の通常総会と田沢湖・角館観光連盟の定時総会がそれぞれ開催されました。

各団体の総会では、3観光協会の業務を本年度をもって終了させ、

新年度からは田沢湖・角館観光連盟が各観光協会を吸収統合する形で組織を一本化するという方針について協議がなされ、いずれの団体も会員各位からおおむねご理解をいただいたと伺っています。

今後、各団体間において、新観光連盟の中長期のビジョンや主たる事務所の位置、事務局体制などについて具体的な協議検討が進められることとなります。仙北市としても、観光事業者と行政が一体となり田沢湖・角館ブランドの価値を高め、観光の振興を図るうえで、市内組織の一体化は極めて意義深いものと考え、統合に向けた取り組みに対する支援に力を注ぎます。

#### ◇モンベルのフレンドエリア登録について

昨年12月、アウトドア用品メーカーの株式会社モンベル（本社大阪市）と、「野外活動の推進と防災協力に関する協定」を締結しました。さらに自然豊かな仙北市をフィールドに、多くの方々からアウトドアを気軽に楽しんでもらいたく、モンベルのフレンドエリアに登録をしました。既に同社ホームページで、「フレンドタウン仙北市」として紹介されています。仙北市の豊かな資源をPRする内容です。これまで以上の誘客効果を期待しています。

また、「フレンドタウン仙北市」をきっかけに、会員限定の割引やプレゼント、サービスを提供する市内の宿泊施設や飲食店・土産店など、27店舗の登録もいただきました。ご協力を嬉しく思っています。

この情報は、全国78か所のフレンドエリアと1,600か所以上のサービス提供施設を取りまとめた特典ガイドとして、約76万人の会員に周知されています。

今後同社との連携を進め、アクティビティ（活動・活気・体を使っての遊び）が満喫できる仙北市の魅力をアピールしたいと考えています。

## 【農林部】

### ◇水稲の春作業の状況について

水稲の春作業は、春先に不順な天候が続いたことから、耕起作業等に遅れが生じ、田植え作業の遅れを心配していましたが、5月中旬以降晴天が続いたことから作業が進み、例年より2日早い5月22日に田植えの盛期を迎え、現在は一部を除きほぼ終了しています。

国からの生産数量目標の配分は今年度が最後となります。平成29年産米の生産数量目標は、前年比170t減の15,238tの配分を受け、仙北市地域農業再生協議会及び、同協議会の認定方針作成者より、各農業者に生産数量目標を通知しています。

このことで、各農家から提出されることとなる営農計画書（水稲共済細目書）の受付相談会を4月11日から4月20日まで市内7地区で開催しました。全体の65%にあたる1,356件から受付相談があり、現在作物ごとの集計作業を行っています。

経営所得安定対策交付金申請の提出期限が6月30日となっていて、近日中には各農家へ米等の作付状況を記載した申請書を配布し、6月中旬には市内の各所で申請手続きの説明会を開催します。農家個々の申請漏れや書類の不備等の防止を図り、遅滞なく交付金が交付されるよう注意を払っていきます。

また、平成30年産以降の需要に応じた米生産の取り組みについては、県や各認定方針作成者等と引き続き協議を重ね、8月を目処に生産の目安等の算定・提示方法等の基本方針を固め、年内には仙北市地域農業再生協議会で承認いただきたいと考えています。

### ◇畜産環境総合整備事業について

西木町高野地区で昨年度から整備を進めている堆肥処理施設は、本年度、処理施設の建築工事と脱臭棟の建築工事、外構工事等を実施して完成となります。

事業主体の秋田県農業公社では5月10日にそれぞれの工事について入札を行った結果、処理施設等の建築工事、外構工事ともに市内の業者が落札し、11月30日までの工期で工事着手して

います。

#### ◇第11回全国和牛能力共進会の出品について

9月7日から11日にかけて、宮城県（夢メッセみやぎ・仙台中央食肉市場）で全国和牛能力共進会が開催されます。仙北市から種牛しゅぎゅうのぶの部第7区（繁殖雌牛群区はんしよくめすうしぐんく）に角館町の相馬勲（そうまいさお）さんの「第86うるしばら号」、また西木町の田口春美（たぐちはるみ）さんの「ひまり号」が秋田県代表として出品されるとの内定を秋田県出品対策委員会より受けました。

このほか、肥育牛ひいくぎゅうの部第8区・9区でも、仙北市産の牛が秋田県代表の有力な候補となっていると聞いています。

本大会は、5年に1度開催される「和牛のオリンピック」とも言われる権威ある全国大会で、秋田県最終予選を勝ち残った19頭（種牛しゅぎゅうのぶの部11頭・肥育牛ひいくぎゅうのぶの部8頭）に選ばれ出品の内定（肥育牛の最終選考は7月22日）を受けたものです。

全国大会出品に係る経費の支援を行うため、補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

#### ◇基盤整備事業について

県営事業で実施している基盤整備事業は、本年度から田沢湖生保内南地区で工事が始まります。一部を除き既に入札が終了し、市内業者（一般土木A・B）7社が落札し、7工区（40.1ha）で面工事を実施します。工期は本年12月となっています。

本年度計画の残工事についても、準備が整い次第速やかに工事発注を行うと県から伺っています。

#### ◇薬用作物産地拠点化等について

株式会社ツムラ・薬草生産組合・仙北市の3者が、薬用作物における国内産の普及振興及び仙北市での産地拠点化を図るため、連携を締結し事業を推進しています。ツムラ側からの徹底した栽培技術指導で、平成28年度実績からは収量も大幅に増え、産地としての

拠点化が図られつつあります。

4月14日には、仙北市薬草生産組合を事業主体に農水省に応募していた「薬用作物等地域特産作物産地確立事業」の実施計画が承認され、播種管理機及び除草作業機などの導入が決定しました。労働力の軽減や耕作放棄地を活用した薬用作物栽培は、今後もさらに拡大するものと期待しています。

平成24年度から進めてきた園芸作物試験圃場設置事業は、当初ダリアをはじめとする6品目で、出荷量55t、出荷額は944万円でした。5ヶ年計画の最終年度となる平成28年度は、スナップエンドウ等の追加作物の導入を図り、12品目で出荷量145t、出荷額が2,367万7千円となり、農業の所得向上に繋がってきました。

#### ◇農業委員並びに農地利用最適化推進委員の募集について

農業委員会等に関する法律の一部が改正(平成28年4月1日施行)され、農業委員の選出方法が、公選制から市長が議会の同意を得て任命する方法に変更されています。これに伴い、農業委員候補者並びに農地利用最適化推進委員候補者の募集を、6月20日から7月19日までの1か月間行います。市民への周知は広報せんぼく・農業委員会だより、及び市ホームページでお知らせします。

農業委員候補者は、仙北市農業委員会委員候補者選考委員会により17人を選考する予定です。その選考委員は、元農業委員経験者の中から田沢湖・角館・西木のそれぞれの地区から1人を選出し、副市長・総務部長・農林部長・農業委員会事務局長の7人で選考委員会を開催する予定です。

農地利用最適化推進委員は、田沢湖地区9人・角館地区6人・西木地区5人を、地区ごとに候補者の中から現在の農業委員会で選出する予定です。

### 【建設部】

#### ◇地域高規格道路整備について



5月26日、国道46号「地域高規格道路」盛岡秋田道路整備促進期成同盟会総会、地域高規格道路大曲・鷹巣道路整備促進期成同盟会総会を開催しました。

国道46号の期成同盟会総会は、盛岡秋田間の関係沿線全市町に参加をいただきました。今後も沿線市町・沿線住民が一丸となって活動を強化し、高速移動時代に対応できるアクセス道路の整備として、刺巻地区の整備改良、第2仙岩トンネルの整備を含む道路改良について強力に事業推進することを確認しました。

大曲鷹巣道路の期成同盟会総会では、仙北・北秋田両市境の大覚野峠を含む14.3キロメートルの地域高規格道路整備促進、また狭隘箇所早期解消を推進事項とする旨確認しました。

今後は、両同盟会とも関係する自治体・住民とともに、関係機関への要望活動や市民フォーラムなどを開催し、気運を高めたいと思います。議会の皆様の特段のご協力をお願いします。

#### ◇「路面性状モニタリング実証実験コンソーシアム」について

5月30日、「路面性状モニタリング実証実験コンソーシアム」の第5回会議（最終回）を開催しました。

平成28年7月に立ち上げた本コンソーシアムは、国土交通省・秋田県・仙北市・リコーICT研究所で構成され、一般車両に搭載した特殊カメラで道路のひび割れなどの性状を調査する実験をしています。従来、専用機材や多くの人手を要する調査をシステム化することで、測定期間の短縮や低コスト化が図られるとともに、道路整備の優先順位が明確化され、計画的な管理が期待できます。

昨年11月の降雪前と、今年4月の雪解け後の2回にわたり、国道46号をはじめ複数の県道・市道で計測したデータを比較検証し、一定の成果が得られています。

今後、報告書の提出をもってコンソーシアムは解散となりますが、リコーICT研究所はコンソーシアム解散後も、技術進捗の確認のため仙北市で実験を継続する方針です。

## ◇水道事業について

平成29年度水道施設整備費国庫補助事業について、4月1日現在の内示率をお知らせします。雲然田中・八割地区水道未普及地域解消事業費で148.6%。また、西明寺（神代）地区水道未普及地域解消事業で100%となっています。

このことにより、西明寺（神代）地区は今年度で完成となり、雲然田中・八割地区も来年度で完成となる見込みです。

次に、水道メーター交換期限と水道料金についての報告です。水道メーターの使用期限は、計量法で8年と定められています。期限を迎える水道メーターは毎年期限前に交換して対応していますが、5月に期限を迎える水道メーター1,047個のうち329個が期限前に交換することができないことが判明しました。現在、仙北市水道事業給水条例に基き、適切な対応を検討しています。

## 【医療局】

### ◇市立角館総合病院の開院について

4月1日、皆様が待望としていた新角館総合病院の開院を迎えることができました。開院までの病院建設にご尽力をいただきました多くの方々に対し改めて心から御礼を申し上げます。

新病院では、電子カルテをはじめとする新たなシステムの導入等でトラブルや不具合等を心配していましたが、そのような不具合はなく順調に稼働しています。しかし、新システム導入に伴う受付や受診時の患者の皆様への戸惑いもあります。職員が案内にあたり患者の皆様の疑問や要望にお答えできるよう、日々懸命に取り組んでいます。

また、4月から仙北市日赤奉仕団の方々がボランティアとして、外来フロアで患者の案内等にあたっていただき好評を得ています。心から感謝を申し上げます。

引き続き、市民をはじめ多くの皆様から信頼される病院となれるよう、また、待ち時間の解消や誘導などについて、改善作業を継続します。

なお、旧角館総合病院建屋の今後の在り方について、各部署からの意見を求め、今後の方針検討を始めています。少しお時間をいただきたいと思います。

#### ◇ 平成28年度決算見込みについて

田沢湖病院の業務量は、入院患者数が1万8,669人で、対前年度比115人の増、外来患者数が3万4,096人で、対前年度比2,753人の増でした。病床利用率は看護師が増員されたことなどを要因に、開設以来最高の85.2パーセントとなっています。

収支状況では、患者数の増と経営安定化を目的とする一般会計からの基準外繰入1億円により、事業収益が9億3,959万1千円、事業費用が9億3,057万円となり、事業収支では902万1千円の黒字決算見込みとなっています。

角館総合病院の業務量は、入院患者数が6万9,557人で、対前年度比5,374人の減、外来患者数が13万1,198人で、対前年度比5,907人の減でした。病床利用率は、精神病床と合わせ75.3パーセントになっています。

収支の状況では、事業収益が40億74万1千円、事業費用が41億4,294万7千円となり、事業収支では1億4,220万6千円の赤字決算見込みとなっています。

この主な要因ですが、6月の総合診療科医師の退職、診療報酬改定に伴う病棟機能の変更、及び新病院移転に伴う入院患者の抑制などで患者数が減少となり、収益の大幅な減収になっています。

費用は、患者数の減少に伴い材料費は大幅な減少になりましたが、新病院の開院に伴う移転経費や病院新築による新たな長期前払消費税償却や資本的経費による外構工事等、医療機器等購入などの控除対象外消費税を費用化したことなどの増額も要因となっています。

医療局については、一般会計からの繰り入れにより、事業費用と累積欠損金の解消に向け取り組んでいる現状です。平成28年度決算は純利益896万5千円の見込みとなっています。

## ◇平成29年度の診療体制について

田沢湖病院の診療体制は、県派遣医師の帰任により1人減の常勤医師3人体制でスタートしています。

常勤医師1人の減に対して、角館総合病院をはじめ、市立大森病院、羽後町立羽後病院からの支援をいただいているほか、これまで同様、秋田大学や岩手医科大学、県立脳血管研究センターなどからも支援をいただき、市民が安心できる良質で持続可能な医療の提供に取り組んでいます。

今後も医療局とともに、医師を含む医療スタッフの確保に努め、合わせて職員の意識改革を強力に進め、医療提供サービスの充実と一層の経営改善に努めます。

角館総合病院の診療体制は、今年度も秋田県より3人の医師が派遣となりましたが、産婦人科医師が1人の減、精神科医師も1人の減となり、常勤医師21人の診療体制で、昨年同期より2人減となっています。

不足している診療科では、秋田大学や岩手医科大学などから非常勤医師の派遣をいただき、診療体制の維持と充実を図っています。

また、病院経営にあたっては、新病院が開院し、更なる経営改善を図ることと合わせ、一層の接遇向上に努め、市民への充実した医療サービスを提供しながら、安心して治療が受けられるよう一層の努力を継続します。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げます。本定例会に提案している案件は報告関係10件、条例関係1件、予算関係3件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます。市政報告とします。